

国際学院新聞

第55号

(編集発行)

学校法人国際学院

〒330-8548

さいたま市大宮区吉敷町2-5

TEL 048 (641) 7468

FAX 048 (641) 7432

インターネットホームページアドレス

http://www.kgef.ac.jp/ksjc

主なニュース

- オーストラリア、カナダ、国内研修……………2面
- 新入教職員からのメッセージ……………3面
- 私の実習日誌(健康栄養・幼児保育学科)……………4面
- 味彩コンテスト、幼児絵画展……………5面
- 高校学校活動報告、海外研究……………6面
- 五峯祭、オリエンテーション、体育大会、宿泊研修……………7面
- サイエンスキャンプ、ベストブック……………8面

を、平成5年調理師法施行35周年記念全国大会会長表彰、平成6年調理師養成功労者厚生大臣表彰、平成10年埼玉県栄養士会会長表彰、平成12年保育士養成功労者会長表彰、更に、平成22年文部科学大臣から短期大学教育功労者表彰を受賞されている。

「(Character Building) (capability)」へと成長して行く。国際学院が求める生徒の理想像は「勤勉性を備え、知的に正直な青年」である。全人的な発達を遂げる青春期に、体系的な2000日の学習の中で、自尊感情を育み、困難に際しても前向きに課題解決し、世界中の何処へ行っても活躍することのできるグローバルリーダーとして、社会に貢献する人へと成長して欲しいと私たちは願っている。

- ◎学習成果：誠実・自尊感情・豊かな感性等。メンツド：凡事徹底・リーダーとの対話等。
- 二、「確かな進学指導」(Career Guidance)
- ◎学習成果：確かな学力・論理的思考力等。メソッド：自己学習能力の形成・課題解決学習等。
- 三、「深める国際理解」(International Understanding)
- ◎学習成果：英語力・異文化対応能力等。メソッド：ユネスコスクール・海外研修等。

凛とした季節になった。「燈火可親」(韓愈)のとおり、読書には最適な気候である。駅中の書店には平積の新刊本が並び、活字離れが嘘のように老若男女が代わる代わる手に取り頁を捲っている。▼戦後の「読書週間」は、昭和二十二年に「読書の力で平和な文化国家を創ろう」を旗印に始まったと聞くと、そのシンボルマークに鼻(ふくろう)が使われていることは誠に射している。知恵の象徴として森の奥深くで静かに瞑想にふける姿が読書と季節に馴染んでいる。▼ノーベル文学賞の候補に挙げられた村上春樹氏は、これまでの人生で最も重要な三冊に「長いお別れ」(レイモンド・チャンドラー)、「カラマゾフの兄弟」(ドストエフスキー)、「グレート・ギャツビー」(フィッツ・ジェラルド)を挙げており、いずれも近代の作品である。▼また、「源氏物語」や「枕草子」、「万葉集」などの古典は、人類の長い歴史の中で市場の洗礼を十分に受けて、選ばれて今日まで残ってきたものである。国語の教科書にその一部が掲載されても、全文を読んだ人は少ない。この「読書週間」を機に読破にチャレンジする人も少なくないようである。▼翻って本学院の図書館では「お薦めの一冊」を募り、読書の啓蒙を図っているが、十二月十日の創立記念日には、国際学院の歴史と伝統の礎である「建学の精神」を分かりやすく説き明かした「敦照のこころ」を熟読玩味してみたい。

瑞宝双光章 授章



大野敦子先生は、理事長・学院長である大野誠先生とともに、昭和38年に大宮国際学院の開設以降、現在の国際学院埼玉短期大学、国際学院高等学校を設置するに至るまでの49年の永きに亘り、建学の精神「誠実・研鑽・慈愛・信頼・和睦」に基づく「人づくりに教育」に弛みなく取り組まれ、国際学院の充実・発展に尽力してこられた。先生は料理学院開設当初に粉骨碎身の努力で調理師並びに栄養士の免許を取得して教師に就任し、教育者として

24年春の叙勲

学校法人国際学院副院長の大野敦子先生が、平成24年春の叙勲で瑞宝双光章を受章され、5月31日に皇居に参内し、天皇陛下に拝謁された。

特に栄養士、調理師養成に力を注ぎ、学生生徒を力のある専門職業人に育て上げ、これまでに多くの有為な人材を社会に送り出しており、その教育への情熱と高い指導力に対し、学生生徒や保護者のみならず、地域社会や教育関係者からも高い評価と信頼を得ている。また、研究者として日本家政学会や日本栄養改善学会等の発表活動や食に関する書籍の刊行、更に埼玉県栄養士会理事に就任、本学院が主催し、本年度20



勲章と勲記

未来を創るグローバルリーダーを育てる

平成25年、国際学院は創立50周年を迎え、ユネスコスクールは創立60周年を迎える。その記念すべき年に、国際学院がこれまで培ってきた「人づくり」の教育理念とユネスコ憲章に示された理念を礎に、世界の人々と共に力を合わせて地球規模の課題解決を図ることが出来るグローバルリーダーを育てたいという強い思いを込め、国際学院中学校を開校する。

2013年中学校開校

国際学院の生徒は、学ぶことで自分の能力が高まることを楽しみながら学習し、自己の可能性を無限に追求していく。教師のフィードバックを得て、新しい気付きを発見し、「覚えること(Knowledge)」から「できること(competence)」へと、「変化に対応し、自らを改善し続けること

味彩コンテスト20周年記念祝賀会開催される

平成24年8月31日に、パレスホテル大宮において「味彩コンテスト20周年記念祝賀会」が開催された。第一部では、午前中に実施された「味彩コンテスト」の表彰式が行われ、学長賞、埼玉県知事賞、さいたま市長賞などの他、17の後援団体や協賛企業から、「一般の部」と「高校生の部」の31名の出場者に賞状と副賞が贈られた。

論説

現代の趨勢であるグローバル化や情報化の進展、少子高齢化などの社会の急激な変化は、産業構造や雇用環境の変化を生み、経済状況の悪化に伴う社会の活力低下や、格差の再生産・固定化など、様々な形で我が国社会のあらゆる側面に影響を及ぼしている。加えて、未曾有の災害である東日本大震災に見舞われたことにより、政治、経済、社会、文化、その他多方面にわたる、更に大きな構造的变化に直面している。

我が国の人間開発指数(Human Development Index)は、2011年の結果では187カ国中の12位であった。これは、「長寿で健康な生活」、「知識へのアクセス」、「人間らしい生活水準」という人間開発の3つの側面を測る指数であり、平均寿命、就学率、1人あたりGDP等から算出している。かつては我が国も1990、1991年にはトップを誇っていたが、ここ10年はノルウェーが独走している。また、我が国の高齢化は世界に例をみない速度で進行しており、2011年版高齢

社会白書によると、2055年には、2.5人に1人が65歳以上となり、平均寿命は、2055年には男性83.67年、女性90.34年とされている。さらに、経済成長が今後形成、能力開発、知識の

国民の全てに高等教育の機会を

Higher Education for All) 伝授、知的生産活動、文明の継承などの幅広い役割を担ってきた。資源に恵まれない我が国においては、優れた人材の養成と科学技術の振興が不可欠であり、高等教育はそれうした社会からの負託に

今後、世界に先駆けて高齢社会に突入していく

日本にとっては、働く人の教育レベル・技術・能力等の質的向上が重要課題となる。世の中が変化し続ける限り、どの年齢であつても、教育を受け続けられ、社会の変化に対応し続けられる社会を作らなければならない。今日、我が国の大学進

学長 大野博之

学長 大野博之

学長 大野博之

学長 大野博之

学長 大野博之

学長 大野博之

学長 大野博之

学長 大野博之

学長 大野博之



広畑義久埼玉県副知事

広畑義久埼玉県副知事

有意義な異文化体験

国際社会で尊敬される「人」テーマ

オーストラリア研修



マッコリー大学での研修

平成24年度の海外研修、オーストラリア研修は6月15日(金)から6月22日(金)までの8日間の日程で実施された。1年次後期からは「日本文化と国際理解」の授業を通して、国際社会の中で尊敬される「人」を目指して学びを重ね、オーストラリア研修を選択した188名が参加した。

成田空港から夜の便でシドニーに向けて出発し、翌朝から2泊3日のホームステイを行った。その後、シドニー市内の視察、郊外への観光、教育提携校であるマッコリー大学およびマッコリー大学での研修、専門施設の視察を行った。オーストラリアで過ごす最後の夜にはフェアウェルパーティーを開催し、お世話になった方々に感謝の意を表し、最終日は朝から別荘別荘行動で思い思いに過ごし、オペラハウスでの音楽鑑賞も行った。そして、シドニー空港から夜の便で帰国の途に就き、翌朝、成田空港に到着、全員が無事に帰国した。

実行委員長をはじめ学生主体の組織で実行した。学生は、様々なプログラムによる有意義な異文化体験を通して、充実した時間を過ごすことができた。

海外の経験を活かして

健康栄養学科2年A組 安田 彩夏

オーストラリア研修を終えて強く印象に残っていることは、ホームステイと市内視察です。オーストラリアの家庭で実際に過ごしながら、英語でしか会話する方法がないという環境に戸惑いもありました。しかし、勉強した成果を発揮したいという気持ちもあり、ホストファミリーの方々と楽しく会話を心がけました。また、日本から持参した折り紙を使いながら、上手にコミュニケーションをとることができたと思います。市内視察では、動物園やシドニーの夜景がとても綺麗に見える場所にも連れて行って頂き、とても思い出深いものとなりました。

カナダ・バンクーバーアイランド大学で英語コミュニケーションの必要性を学ぶ

絵本の中から飛び出してきたような家並み、のんびりと歩く鹿、日々表情を変える海。そんな夢のようなZanainnoの地で本学の学生38名は11日間ホームステイをしながら提携校バンクーバーアイランド大学で第二言語としての英会話を学んだ。広大なキャンパスは施設が充実しており、短期留学生でもジムや球技の用具が豊富な体育館や明るい雰囲気の良い図書館などを使うことが許されていた。メニュー豊富なカフェテリアでは、ランチタイムをり

カナダ研修

様々な課題に取り組んだことよって成長することができたと思います。このような素晴らしい経験を将来に活かせるように、今後も精進していきたいです。



カナダの学生とミニゴルフで交流

科2年生7名の計34名で事前準備や研修を重ねて、学生同士が学科やクラスを越えて交流を深めることができた。海外に行くこともホームステイも初めてで、不安や緊張もありました。

本学の高い専門職への就職率 教育力の成果

進路状況(平成23年度)

平成23年度卒業生の進路決定率は、短期大学幼児保育学科99%、健康栄養学科97%と高い結果を達成した。

幼児保育学科の就職内定者は120名で、その内訳は、115名(96%)が幼稚園教諭や保育士などの専門職として就職し、一般企業などの一般職は5名(4%)であった。また、就職以外では他大学の3年次への編入や専門学校への進学が2名、家業が1名であった。

健康栄養学科の就職内定者は76名で、その内訳は、72名(95%)が栄養士・調理師などの専門職として就職し、一般企業など(5%)であった。また、就職以外では本学専攻科や専門学校、他大学の3年次への編入進学が11名、家業が1名であった。

求人状況については平成23年3月に発生した大震災の影響が懸念されたが、求人数は前年を上回り、学生の就職活動に大きな影響は見られなかった。また両学科とも専門職への就職率は9割を超え、うち健康栄養学科では宮家に2名奉職するなど、本学の教育成果が高く評価された証といえる。

海外研修

日本の歴史と文化を考える契機に

「芭蕉ゆかりの地」を歩く

仙台・日光・学内研修



伝統食を味わう

平成24年度研修旅行(国内)が今年も実施された。6月16日から22日の間、実行委員長を中心に自己学習、現地での研修、研修の

まとめまで含めたスケジュールであった。この研修の目的は、規則正しい集団行動を通して、協調性・積極性・行動性・責任感を養い、日本の伝統ある歴史や文化を理解するために積極的に行動し、研修を通して問題解決能力を身に付けることができるようにするものである。この大目標を実現するために、10分前行動ができる、報告・連絡・相談・確認ができる・公共の

国内研修

今回の研修先は仙台、日光、学内の三箇所であった。仙台研修は、「芭蕉ゆかりの地」を歩く。仙台の歴史や文化を学び、特産品を体験する「こと」をテーマとし、山寺駅から松島海岸、芭蕉庵の湯を散策するコース等であった。日光研修は、日光の歴史と伝統食について関心を持ち、日光東照宮などを散策するコースであ

た。帰校後、グループ毎の研究発表が行われ、旅行で得た知識などをスライドにまとめ、発表を通して研修のまとめを行った。

人間関係の大切さを再認識

幼児保育学科2年A組 佐藤 友里

国内研修では、オーストラリア研修、カナダ研修とは違い幼児保育学科と健康栄養学科の枠を越えた関わりの中でさまざまなコミュニケーションが広がる研修となりました。初めは学科間の触れ合いがなく、実行委員長として、どのようにしたら両学科の学生同士仲良く研修が行えるかと考えました。この課題を解決したのが事前宿泊研修でし

専攻科 横浜研修

専攻科の「外国事情」は、

外国事情 振り返って

専攻科健康栄養専攻2年 飯田 成美

外国事情 振り返って

専攻科外国事情は、開港からの横浜の歴史について大きく反映され、プレゼンテーションの中で立派に成

決算 財務改善着実に進む

平成23年度決算についてご報告いたします。

主な収入の割合は学生生徒納付金67.1%、補助金19.1%、寄付金7.8%でした。主な支出の割合は人件費38.6%、教育研究経費27.4%、管理経費9.5%でした。

収入面では、短大学生数の増加に加え、学生生徒納付金収入が増加し、帰属収入合計は対前年度比約3600万円増加しました。

支出面では、経営改善計画に基づき、対前年度約3200万円の支出削減が行われ、結果、本年度の帰属収支差額は約2億7400万円の収入超過となり、基本金組入後は約1億5100万円の支出超過となりました。

財務面では、経営改善計画に基づき、借入金金の借換と早期償還が行われ、負債総額は約5億4500万円圧縮され、総負債比率は37.4%となり、財務改善が着実に進んだ結果となりました。

なお、財務情報の詳細につきましては、ホームページに公開しておりますので、ご参照ください。

小学校で栄養教諭の実習

健康栄養学科 栄養士専攻2年A組
金成 瑠美

9月3日から7日の5日間、私は母校である「さいたま市立土合小学校」で栄養教諭の実習をさせていただきました。この実習では、直接児童に触れ、授業をする

案を作成しているときには予想していなかったことや、実際の授業で初めてわかることが数多くありました。また、こちらが発問を

10日間の貴重な経験

健康栄養学科 栄養士専攻2年A組
眞壁 沙知

私は、病院で10日間の校外実習を行いました。この実習では、病棟の栄養士としての活動など貴重な経験をさせていただきました。栄養士業務では、選択食のアンケート配布をし、患

者様1人1人の嗜好に合わせた食事を提供することの大切さを学ぶことができました。また、食料づくりを体験し、そこで患者様へ正確に食事を提供するために必要なものという事がわか

りました。病棟の栄養士として患者様に栄養指導をする現場では、理解をしていただく事



の難しさについて学ぶことができ、またコミュニケーションをとることがとても重要だと思いました。食事の模型や媒体を使い説明することなど、内容についてわかりやすく、具体的に伝えるという事が大切だと感じました。

また、栄養管理計画では、カルテに記述してあることだけでなく、患者様の生活習慣なども配慮し考えなければならぬという事を学びました。

集団調理業務では、野菜の切り込み、下処理などの役割分担が決められているために、時間的な制約がある中で調理をしなければならぬため、時間配分について考慮しながら作業を進めることで調理手順を理解

お客様第一を学んで

健康栄養学科 調理師専攻2年C組
高橋 節子

8月20日から29日の間、お客様へのおもてなしの実

際を学ぶため、パレスホテル大宮の日本料理レストランでレストランサービス

の切込み、下処理などの役割分担が決められているために、時間的な制約がある中で調理をしなければならぬため、時間配分について考慮しながら作業を進めることで調理手順を理解

に活かせるように努力していきたくと思います。

来に活かせるように努力していきたくと思います。



お客様は約100席、サービススタッフは十数名和服で働いています。普段の生活とあまりに違うので気後れしていたのですが、何より、みなさんがとても暖かく受け入れて色々教えて下さったので無事に研修を終えることが出来ました。感謝しています。毎日、おもてなしの心得を沢山教えて頂き、新しいことに挑戦させて頂く中で発見もあ

り、とても充実した時間となりました。

まず感じたことは衛生管理、早目の準備、備品の扱い易い配置や見易い表記など、営業が始まったらお客様へのサービスに専念できるように業務の統一がされているということでした。

メニューブックの底は下座に向ける、調味料は上座の人が取り易いようにする等、上座を重視する配慮にも感じました。このようなことの徹底がおもてなしに通じると理解しました。また、自分の担当エリアだけではなく、遠くのお客様の状況も把握し、スタッフ全員でサービスにつとめることも、お客様に満足して頂くために大切なことばかりでした。そして、いつも笑顔で丁寧にお互いの協力のもとに見事にこなされて

私の実習日誌

貴重な実習での体験

保育園実習を経験して 憧れの先生を目指して

健康栄養学科 2年A組
吉田 千紘

私は自分が通っていた幼稚園の先生に憧れて、短期大学へ入学し、本格的に保育者の道を目指しました。その先生は、私と毎日遊びながら笑顔で接してくれました。当時は幼稚園に通うことが楽しかったという思い出がたくさんあります。

8月の保育実習は2年生の私にとって、まじめの実習となります。実習初日から積極的にお手伝いできることはあるか、自分に何が出来るかを考えながら、指導して頂く先生方と

とコミュニケーションをとることを心がけました。実習前には、ピアノや童謡の楽譜と紙芝居を用意して、弾きうたいや読み聞かせなど積極的に実践させて頂きました。保育園では様々な年齢のクラスで実習を行い、失敗と言えるような経験も多々ありましたが、担任の先生方から多くの助言を頂きました。学校の授業だけでは学べないことを保育現場で経験することができました。

今回の保育実習は2週間

と短い期間でしたが、子どもたちとの関わり方や先生方の保育技術などを学ぶことが出来ました。今後は、実習中に学んだことを深めて、私が憧れていた先生に近づけるよう努力していきたいです。

私は来春から実習でお世話になった幼稚園に就職します。実習園は母園でもあり、本実習が就職に繋がれば良いと思っています。そのため、実習に臨む前に部分・責任実習で行いたいことを決めて練習するなど、準備を怠らずに余裕を

持つて実習に挑むことを心掛けました。

実習が始まると、就職を意識してしまいましたが、休み中に準備していたこともあり、多少は臨機応変に対応することができました。また、掃除や手洗いなどわからないことは先生方に質問して把握し、自ら進んで行うようにしました。作業に慣れてきたら、指示されたことだけではなく、自ら気づいて行動するようにも心掛けました。そ



母校で栄養教諭実習

私は来春から実習でお世話になった幼稚園に就職します。実習園は母園でもあり、本実習が就職に繋がれば良いと思っています。そのため、実習に臨む前に部分・責任実習で行いたいことを決めて練習するなど、準備を怠らずに余裕を

持つて実習に挑むことを心掛けました。

実習が始まると、就職を意識してしまいましたが、休み中に準備していたこともあり、多少は臨機応変に対応することができました。また、掃除や手洗いなどわからないことは先生方に質問して把握し、自ら進んで行うようにしました。作業に慣れてきたら、指示されたことだけではなく、自ら気づいて行動するようにも心掛けました。そ

実践したいと思ったことは積極的に相談して、実践の場を頂きました。実習生だからこそ挑戦する気持ちは大切であり、失敗を恐れずに自分の持っているものを全て出し切ることを強く意識しました。

実習を終えて、保育者になりたいという思いが現実なものになり、更に目指すものが具体的に見えてきました。得意なことを活かしながら、子どもたちと楽しく生活することが重要だということに改めて感じることができました。そのため指導案で改めたいところを、さまざまな行動を予想して、様々な場面に対応できるように準備を心がけ、何事も焦らずに、子どもたちと一緒に楽しみながら責任実習を行うことができました。読み聞かせや歌など実

践したいと思ったことは積極的に相談して、実践の場を頂きました。実習生だからこそ挑戦する気持ちは大切であり、失敗を恐れずに自分の持っているものを全て出し切ることを強く意識しました。

不安がありました。しかし、実際に実習が始まると、利用者の方と接していると、職員の方の話を伺うなど、様々なことを学んでいくうちに緊張や不安感は解消され、次第に福祉の仕事に興味や関心を持つようになりました。

不安がありました。しかし、実際に実習が始まると、利用者の方と接していると、職員の方の話を伺うなど、様々なことを学んでいくうちに緊張や不安感は解消され、次第に福祉の仕事に興味や関心を持つようになりました。



施設実習を経験して 利用者の方と接して学んだこと

健康栄養学科 2年B組
大久保 弘明

私が施設実習を行ったのは、肢体不自由者の入所型支援施設で、一人ひとりに望ましい支援を心がけながら、利用者の方が生活を送ることで自立を目指すという施設でした。私は実習を経験するまでは、福祉にかかわる経験が少なく、実習が始まる前はとても緊張や不安がありました。

肢体不自由者の施設では様々な障害を持った利用者の方がいますが、生活面や仕事面において極力自分で行って頂きながら、必要に応じて援助することで利用者の方の自立を目指すというものでした。そのため、施設での生活は毎日自立に向けての活動であることに痛感し、実際の現場で実習を通して多くのことを学びながら、自分の夢を確かめた。そして、私は今回の施設実習を経験して、福祉の仕事にやりがいを感じ、自分の将来に役立てたいと思いました。私は障害者支援施設で働くことを決めることができました。今後、施設で働いていく中で、時にはつまずいてしまうこともあると思いますが、そこで一人ひとりの利用者の方に望ましい支援ができるように努力していきたいと思

埼玉県の黒豚・野菜を使った「飯に合う彩り主菜料理」

第20回 味彩コンテストを開催

県民の健康づくりに貢献

新設の「高校生の部」 学長賞に森田実優さん



審査員の前で調理し競い合う最終審査では、真剣に調理の腕を振るっていた

8月31日に、埼玉県産の黒豚・野菜を使用した「ご飯に合う彩り主菜料理」を審査の課題とした第20回「味彩コンテスト」が国際学院埼玉短期大学で開催された。

本コンテストは、本学の理事長・学院長大野誠先生の熱意により、地域社会や一般家庭の食生活の改善、健康増進に役立たせることを目的に平成5年に創設されたものであり、毎年、一般市民を対象に健康づくりに有用な献立のアイデアを募集実施している。

我が国では、戦後まもなく急速な経済発展を遂げ、生活水準が向上すると共に一般家庭での食生活に大きな変化をもたらした。従来の伝統的な手作りによる食生活から食事や調理を家庭外で行う、いわゆる食の外部化が進んでおり、そのため、朝食の欠食等の不規則な食事、脂質の過剰摂取や野菜の摂取不足に代表されるような栄養の偏りを生み、健全な食生活が失われつつある。



埼玉県産の黒豚・野菜を使用した献立を最終審査する審査員の先生方

本コンテストは、栄養バランスに配慮した適切な食事の重要性を指摘し、このような問題を解消する運動の一助として活動しているものであり、また、厚生労働省では国民健康づくり施策として「健康日本21」の推進と共に「地産地消」の重要性を指摘しており、この普及運動の一端も担っている。募集後、書類審査（第一次審査）を行い、最終審査（第二次審査）では審査

20回を迎えることになった。そこで、これまでの「一般の部」に加え、新たに「高校生の部」を設けて実施した。当日は書類審査を通過した「一般の部」17人（応募者数211人）、「高校生の部」14人（応募者数181人）が、最終審査で各レシビに基づき真剣に調理の腕を振るう姿が印象的であった。

その結果多くの素晴らしい作品が生まれ、学長賞、埼玉県知事賞、さいたま市長賞、埼玉県教育委員会教育長賞、さいたま市教育委員会教育長賞のほか各種の賞が贈られたが、そのうち、見事に学長賞の栄冠を得た方は、「一般の部」では岡野晴美様（作品名：黒豚豚

（根菜のマリネ風）、「高校生の部」では森田実優様には学長賞、埼玉県知事賞、審査委員長賞をはじめ16の賞を選出した。

この展覧会の開催に当たっては、大野誠学院長、大野博之学長をはじめとする幼児保育学科の教員や大学の職員の尽力はもろろんのこと、幼児絵画展委員を中心とした在学生の力が大きい。審査会や展示会の開催支援のために、集中的に活動を続けてきた。

最後に、今後とも出品された子どもたちのさらなる活躍を期待するとともに、保護者の方々や幼稚園、保育所などの関係の皆様方に厚く感謝申し上げます。

食育、地産地消の大切さをアピール

シンポジウム経過報告

記念事業として 特別に実施



「食育」で体も心も健やかに 今日の食生活のあり方問う

8月31日午前中に「味彩コンテスト」が国際学院埼玉短期大学で開催されたが、午後は会場をパレスホテル大宮に移し、午後2時から4時までテーマを「食育」次世代へ―食文化の伝承―としたシンポジウムが開催された。本シンポジウムは第20回「味彩コンテスト」の記念事業として特別に実施されたものである。シンポジウムは、理事長・学院長大野誠先生による「味彩コンテスト」を創設した熱き想いや、食育および地産地消の大切さに触れた挨拶により始まり、次いで学長大野博之先生の開会の辞へと続いた。

パネリストの先生方



の名誉教授内野澄子先生が座長となり、「味彩コンテスト」の審査委員長を務めていただいた東京家政大学の名誉教授河村フジ子先生が「食育で体も心も健やかに生きる」をテーマに基

調講演を行い、続いて実践女子大学の名誉教授藤澤良知先生が「期待される食育を目指して」、そして女子栄養大学の名誉教授足立己幸先生が「食育の輪」を伝えたい―新生「食育ガイド」をテーマにそれぞれ特別講演を行った。その後のパネルディスカッションの部では昭和女子大学の特任教授比護和子先生が座長となり、上記3名の先生方がパネリストとなって行われた。一般人と学生合わせて255名もの来場者で会場はほぼ満席となり大盛況であった。

近年、日々多忙な生活を送る中で食の大切さに対する意識が希薄になり、栄養の偏りや食生活の乱れが成人のみならず子供にも見受けられるようになっており、健全な食生活を実践することができる人を育てることへの関心が大きいこともあり、パネリストと来場者との間で活発な質疑応答がなされた。最後に副学長の松本昌雄先生による閉会の辞をもってシンポジウムは終了したが、多くの来場者が食生活のあり方について良い機会になったものと思われる。

最後にりましたが、本シンポジウムの開催にあたり、多大なご支援・ご協力を賜りました関係諸氏並びに関連機関に深く感謝申し上げます。



表彰風景



第27回 幼児絵画展を開催

86園・所から822点の応募

今年も五峯祭と同時開催

幼児絵画展は、11月3日(土)4日(日)に開催された本学の大学祭である「五峯祭」に実施され、盛會裏に開催された。この幼児絵画展は、昭和61年発足以来27回を重ね、埼玉県内の幼稚園や保育所に通っている3歳から

5歳までの子どもを対象にした展覧会である。今回は、86園・所から822点の応募が寄せられた。

今回の審査では、塗師様一郎委員長を中心として、学外の先生方、並びに学内の審査委員併せて17名の審

査委員が、すべての作品を慎重に審査し、優秀な作品には学長賞、埼玉県知事賞、審査委員長賞をはじめ16の賞を選出した。

この展覧会の開催に当たっては、大野誠学院長、大野博之学長をはじめとする幼児保育学科の教員や大学の職員の尽力はもろろんのこと、幼児絵画展委員を中心とした在学生の力が大きい。審査会や展示会の開催支援のために、集中的に活動を続けてきた。

最後に、今後とも出品された子どもたちのさらなる活躍を期待するとともに、保護者の方々や幼稚園、保育所などの関係の皆様方に厚く感謝申し上げます。

陸上競技部 3年連続インターハイ出場

陸上競技部は、5月の埼玉県大会において、女子は落井優華さん(1年)が100m7位入賞、串田遥香さん(2年)が400m4位、400mH6位入賞、飯田夏鈴さん(1年)が走高跳5位入賞、清水ちはるさん(1年)が走幅跳8位入賞、白田智愛さん(3年)が7種競技優勝、辻本星菜さん(1年)・落井優華さん(1年)・三浦海友さん(2年)・星美生さん(2年)で組んだ400mRで5位入賞、中村みなみさん(2年)・三浦海友さん・宮井沙華さん(1年)・串田遥香さんで組んだ女子1600mRが4位入賞を果たした。男子は林寛高君(3年)が8種競技優勝、照井武尊君(2年)・西澤拓也君(3年)・儀藤南十星君(2年)・林寛高君で組んだ400mRで4位入賞を果たした。以上の結果、8種目で関東大会出場を果たすことができた。



大会で活躍した陸上競技部

射撃部 逆境を乗り越え全国第3位

顧問 篠崎 理沙

本校射撃部は全国大会優勝という目標を掲げ日々練習を重ねている。今年度は4月に行われた全日本ジュニアビームライフル射撃大会において、宮川ちさとさんが2連覇を達成し、続く関東大会では団体戦準優勝、個人戦においては宮川ちさとさんが2連覇を成し遂げ、阿部美咲さんが3位に入賞した。6月に行われた東日本大会では、ビームライフルで宮川さんが優



射撃部

競技で4位入賞を果たしたが、全国大会出場(上位6位までが出場権獲得、7種競技は3位まで)を果たすことができなかった。そのようなあとと一歩で全国大会出場を逃してしまう状況の中、林寛高君が8種競技において、優勝を果たした。全国大会出場を決めてくれた。また、優勝記録である5221点は埼玉県高校新記録の樹立となった。7月に新潟県で開催された全国高校総体では、林寛高君が8種競技に出場し、16位という結果であった。実力者が集まる全国の舞台では、頂点を取ることはできなかったが、本校として3年連続のインターハイ出場を果たすことができた。今回、県や関東で活躍した選手が多く1・2年生である。来年のインターハイでは、出場するだけでなく頂点を目指し、陸上の実力校として名を馳せようさらに努力していきたいと思う。

勝、阿部さんが3位入賞、ピストルで竹重明菜さんが優勝、エアライフルで阿部さんが準優勝するなど計4つのメダルを獲得した。全国大会前には、全日本ビームライフル射撃競技選手権大会が行われ、阿部さんが4位、須之部美さんが5位、宮川さんが8位と3名入賞することができた。そして、射撃部の最終目標である全国大会の団体戦

第15回 五峯祭開催

秋晴れの9月15日(土)・16日(日)の両日、高等学校の第15回「五峯祭」が開催された。生徒一人ひとりの「情熱」が通じたかのように、例年以上に多くの来場者を迎え、盛況の内にフィナーレとなった。

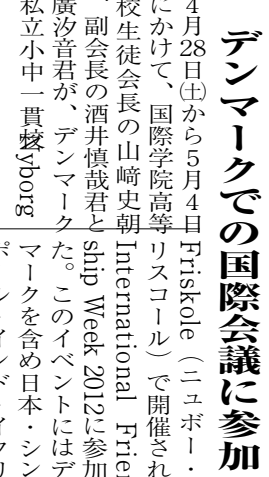
最優秀賞には、3年G・H組「プラネタリウム」が選ばれ、段ボールを創意工夫しプラネタリウムに見立てた展示は来場者にも好評であった。その他、例年特

本校の五峯祭は開学以来、日頃の学習成果を発表する場としている。今年

1年生の石毛雅さんと花岡汐織さんを中心に正面玄関の階段を使用し制作した階段アートも五峯祭に花を添えた。

ユネスコ活動

デンマークでの国際会議に参加



4月28日(土)から5月4日(Friske) (ニューボーン)にかけて、国際学院高等学校生徒会長の山崎史朝君、副会長の酒井慎哉君と末廣汐音君が、デンマークの私立小中一貫校「Dong

進路指導部では、生徒の希望進路実現のため、放課後講習や長期休業中の講習など様々な取り組みを行っている。その成果もあり、現在、4年間連続して国立大学の合格者を輩出するなど、確実に進学実績が向上している。その牽引力のひとつである、熊谷での夏季進学合宿は、毎年恒例の伝統行事となっている。仲間と切磋琢磨しながら、学力の向上を目指すこの合宿は、熊谷という場所柄もあってか、教員と生徒の「熱い」学習への取り組みがなされており、毎年大きな成果を上げている。

海外研究 海外研修、語学研修、国内研修を実施

海外研究は、本校の建学の精神及び教育方針のもとに、異文化体験や異文化コミュニケーションを通じて、国際感覚を高め自立心を養うとともに、規律正しい集団生活の中で協調性・実行力・責任感を身につけ、国際社会に対応できる態度や能力を育成することを一般目標とし、授業の環境として行われる。

海外研修コースは、バンクーバー近郊の町で2泊3日のホームステイを体験し、ホストファミリーとの初対面では緊張を覚えたが、お別れとなる「さよならパーティー」の際は、ホストファミリーと笑顔でコミュニケーションをとるようになっていた。この三日間の経験はその後の高校訪問やバンクーバーでの市内

班別などの各研修に十分生かされていた。

第2学年は11月から本格的な進路活動をスタートする。この研修で得た成果や自信を今後の進路活動につなげ、各々が来年度の進路結果に結びつけてくれることを期待したい。

合宿場所は、立正大学の熊谷キャンパスである。有名大学のキャンパスをお借りし、閑静で、設備が整っているという、学習するにはこれ以上ない恵まれた環境の中で実施された。尚、日程は8月6日より8月9日までの3泊4日で、全学年生徒計51名が参加した。

熊谷で「熱い」夏季合宿

進学合宿 学ぶ力は未来を拓く

立正大で3泊4日

これは、毎年の積み重ねにより、先輩から後輩へとよき伝統が受け継がれてきたことの証明であると考えている。合宿の翌日には、校外模擬試験が待ち受けていたこともあり、どの生徒も高い意識で、いわゆる受験学力の向上に努めることができた。今回の夏季進学合宿もまた、よき伝統のひとつとして、来年度の生徒たちへと受け継がれていくのであろう。

「一流の進学校」に成長するために、国際学院の進学熱は、まだまだ温度を上昇させている。

五峯祭に5520名来場

国際学院三大行事の一つである五峯祭(いづみねさ)が平成24年11月3日、4日の両日、短期大学で開かれた。

本年度のテーマは「輝け笑顔 広げよう 仲間の輪 つなげよう未来へ!」であり、クラス毎に多数の応募があった中から決定した。



学習成果の発表の場

テーマ「輝け笑顔 広げよう 仲間の輪 つなげよう未来へ!」

本年度のテーマは「輝け笑顔 広げよう 仲間の輪 つなげよう未来へ!」であり、クラス毎に多数の応募があった中から決定した。

五峯祭のネーミングは本学の建学の精神である「誠実」「研鑽」「慈愛」「信頼」「和睦」を天高くそびえる五つの峯に例えて名づけられたもので、多数の一般公募の中から選ばれ決定された。

五峯祭は、全国の大学のモデルとして認められ、多くの大学関係者や文化祭実行委員の学生が開催期間中に見学に来るなど、全国的にも類を見ない学園祭として注目を浴びている。

開会期間中は天候にも恵まれ、来場者は一日間で5,520名を数えた。今年度の五峯祭は例年にも増して各クラスや研究グループによる発表が各会場で実施され、多くの来場者が足を止めて展示された資料に見入るなど、学生の説明に熱心に耳を傾ける姿が見受けられた。

クラス内の交流深める

専門性高めるよい機会に

平成24年4月12日から13日にかけて、軽井沢プリンスホテルにおいてオリエンテーション宿泊研修が実施された。参加したのは、短期大学新入生、専攻科全学生であった。

宿泊研修に向けて、4月初より学生を中心として組織作り・準備が進められた。専攻科の2年生を中心に、自分たちが行うべき役割の確立と宿泊研修中のルール作りや守るべきマナーの確認を行った。また、新



入生ならびに専攻科からはオリエンテーション委員が選出され、宿泊研修中クラスをまとめる役割を担った。宿泊研修当日、軽井沢は4月とは思えないような陽気であり、全プログラムを無事に終えることができた。宿泊研修中は、新入生・専攻科生もオリエンテーション委員を中心に、良い緊張感を持って、積極的な態度で研修に参加することができていた。宿泊研修を通し

地域連携では、今年で27回目となる「幼児絵画展」が開催された。県内の幼稚園や保育所・保育園から86園、822点の力作が集まり、作品の展示場は自分の作品を前にポーズをとり記念写真を撮る園児や家族連れの微笑ましい姿が数多く見受けられた。

また、今回20周年を迎えた味彩コンテストの会場では、応募総数436点の中から受賞した21作品と共に、これまでの全優秀作品が展示され、記念シンポジウム、祝賀会の模様も写真やビデオで紹介された。また、学長賞(最優秀賞)に選ばれた作品は、開催期間中「レストラン彩り亭」で、秋を彩る手作りの味、として一般の来場者にも提供された。

更に同窓会総会が開かれ、同窓会(学友会)コーナーでは、同窓会役員の方々の協力を得て、「おもちゃ釣り」等多くの子どもで賑わい、一層の盛り上がりを見せた。また、4日クラブによる餅つき大会な

どイベントと埼玉県産の食材の提供と販売が行われる等、2日間共に大盛況の内に五峯祭が終了した。

「人づくりを科学する」汗と絆で勝利をつかめ!」を大会テーマとして、今年度の体育大会は5月18日に上尾運動公園体育館で行われ、当日の朝は雨が降り、午後は天気が悪くなるといふ予報もありました。今回は屋内での開催という点もあり、天候に左右されることなく、予定したプログラムを進行させることができました。

今年度の体育大会を振り返り、責任者として大変嬉しかったことが二つあります。一つ目は、ケガや体調不良を訴える学生がいなかったことです。例年の反省

「汗と絆で勝利をつかめ!」を大会テーマとして、今年度の体育大会は5月18日に上尾運動公園体育館で行われ、当日の朝は雨が降り、午後は天気が悪くなるといふ予報もありました。今回は屋内での開催という点もあり、天候に左右されることなく、予定したプログラムを進行させることができました。

今年度の体育大会を振り返り、責任者として大変嬉しかったことが二つあります。一つ目は、ケガや体調不良を訴える学生がいなかったことです。例年の反省

白熱したレースと精一杯の応援に感動

大会総括学生の努力のたまもの



「汗と絆で勝利をつかめ!」を大会テーマとして、今年度の体育大会は5月18日に上尾運動公園体育館で行われ、当日の朝は雨が降り、午後は天気が悪くなるといふ予報もありました。今回は屋内での開催という点もあり、天候に左右されることなく、予定したプログラムを進行させることができました。

今年度の体育大会を振り返り、責任者として大変嬉しかったことが二つあります。一つ目は、ケガや体調不良を訴える学生がいなかったことです。例年の反省

今年度の体育大会を振り返り、責任者として大変嬉しかったことが二つあります。一つ目は、ケガや体調不良を訴える学生がいなかったことです。例年の反省

今年度の体育大会を振り返り、責任者として大変嬉しかったことが二つあります。一つ目は、ケガや体調不良を訴える学生がいなかったことです。例年の反省

今年度の体育大会を振り返り、責任者として大変嬉しかったことが二つあります。一つ目は、ケガや体調不良を訴える学生がいなかったことです。例年の反省

この経験がどこかの場面でも活かされることを期待しております。来年度もさらに充実した体育大会が開催できるように取り組んで参りたいと思います。

健康栄養学科2年A組 佐久間真子

私は今年度の委員長を務めました。1年生の時からは総括学生として活動していましたが、当時は先輩方からの指示を受けているばかりで、名簿や横断幕作製など準備しなければならぬこと全てを把握していた訳ではありませんでした。そこで、昨年は先輩方に頼ってばかりだったので、自分が委員長として体育大会を運営することができると、後輩を引っ張っていくことが

晴らしい五峯祭を後輩に引き継ぎ、今回ご協力頂いた皆様から感謝申し上げます。

分かれ、「翼をください」と「校歌」と自由選択課題曲の中から1曲の計3曲を発表しました。2日間に渡り、他クラスの学生と交流ができて、有意義な学年交流会でした。

学年交流プログラムを終えて

学年交流プログラムとして千葉県野田市の清水公園へ行きました。このプログラムの目的はクラスの枠を越えて学年間交流を深めながら保育スキルを高めることです。清水公園では午前中に野外調理(カレーライスづくり)、午後はフィールドアスレチックを行いました。

午前中の野外調理では、各クラス混合で班が編成されていたことから、最初は緊張や不安などもありましたが、それぞれの役割を分担しながら調理を進めてい

平成24年度 学年交流会



今年度の1年生の学年交流会は、9月20日1日目を野外で、2日目を学内で行いました。各クラスから2名から3名を抽出し、8名から9名の編成で班が20班出来上がりました。

午前中の野外調理では、各クラス混合で班が編成されていたことから、最初は緊張や不安などもありましたが、それぞれの役割を分担しながら調理を進めてい

アジア国際キャンブマレーシア研修旅行

魅力あふれるマレーシアと理想的な研修先



深まった仲間たちとの信頼関係

通信制の生徒ら7名

井川学務部長を団長に通信制の生徒4名を含め計7名が、7月1日から4泊5日での研修旅行に参加した。その目的は、参加生徒の現地での体験活動、現地校(Sekolah Sultan Alam Shah)との関係強化、ネット・サイエントイスト(次世代科学者育成)キャン

異文化体験に充実感

現地校 民俗音楽や古武道で大歓迎

プへの参加の他、次年度開設する国際学院中学校の研修先としての視察である。現地校から学ぶ教育的な意義やマレーシアの生徒達との国際交流、そして世界遺産見学を通しての異文化体験には充実感があつた。また、国際的な視野やコミュニケーションの手段と

しての英語力を養う視点から見ても、マレーシアでの研修は理想的と言える。特に、現地校では民族音楽や古武道の演技を披露してくるなど、私たちが大歓迎してくれた。また、現地校の生徒達とはとても素直で向上心があり、目上の人への尊敬の念や自然と共に生きる生活スタイルからは、多くの点を学べると思う。参加した大原千佳さんは、今回の感想を「第一に

言語の違いですが、ジェスチャーや表情など体を使って懸命に伝えることで、伝えられることが沢山あることを実感しました。また、実際に異国の文化に触れることで、逆に日本に対しての意識も深まりました。更に、一緒に行った仲間との信頼関係が一段と深まったことですね」と話してくれました。このように、生徒、教員ともに、大変実りの多い異文化体験であった。

の気持ちを持ち、協調して物事を進めることができると、改めて実感しました。今回のクラス会で、思い出話や近況報告をすることで、少しでも成長した姿を先生に見せることができ、嬉しい気持ちでいっぱいになりました。また、共に栄

た。学生時代は、栄養士に必要な知識や技術の修得はもちろん、実践的な学びの場である五峯会を通して日々の勉強の成果を発表したり、海外研修で異文化に触れ視野を広げたりする事が集まり、久しぶりの再会を果たしました。皆の変わらない元気な姿と、懐かしい先生の声を聞き、学生時代に戻ったような気分でした。

あつた為、1年後に再会することを約束して、それぞれの道へ歩み始めました。そして1年後の3月24日に、クラス担任の藤井先生を始め、約20人以上の仲間が集まり、久しぶりの再会を果たしました。皆の変わらない元気な姿と、懐かしい先生の声を聞き、学生時代に戻ったような気分でした。

「信は力なり」という言葉です。これは山口先生の座右の銘ですが、山口先生は、「生徒にどんなに裏切られても、信じることに、好きに

内容がほとんどです。しかし、教育の中で最も大事なものは、子ども・生徒・学生が教育を通して、何を学び、何を獲得したのかではないでしょうか。山口先生はそれを「思い出」と表現しているのだと思います。生徒・学生の皆さんも、高校・短期大学でたくさんの思い出を作ってほしいと思います。教員として悩んだとき、迷ったとき、私はこの本を取り出して、山口先生の言葉から多くのことを教えてもらいます。将来、「先生」と呼ばれる職業に就く方はもちろん、親となる人にも是非読んでほしい一冊です。

先生を志す学生にお勧め

今回、学院新聞のベストブックのお話をいただきました。どのような本を紹介させていただければ良いか、いろいろ迷いましたが、今回はこの1冊を紹介させていただきます。私の授業でも紹介した、京都市立伏見工業高校の元ラグビー部監督であり、保健体育の教師でもあった、山口良治先生の自叙伝です。私が山口先生のことを知ったのは、中学生の時でした。当時大ヒットし

ベストブック

山口良治 著 「生きる力を伝えたい 泣き虫先生の熱血教育論」

たドラマ「スクール☆ウォーズ」(生徒・学生の

先生と教師の絆の書

生徒との出会いや葛藤綴る

皆さんの保護者の方は、よくご存じだと思えます)のモデルとなったのが、山口先生です。ドラマを見て、中学生ながら感動した私は、その原作

は、この山口先生との本の中での出会いがあったからかもしれません。この本の中では、山口先生の様々な生徒との出会いや葛藤、そして教師としての成長が山口先生自身の言葉で綴られています。その中でも特に印象深かった言葉を少し紹介



なること」を貫きました。今、この世の中で私も含めて、それができる「先生」と呼ばれる人がどの位いるでしょうか。私も先生を「信じ、待ち、許す」ことを忘れずにいたいと思っています。二つ目は、「思い出作りが教育である」という言葉です。この言葉には、次のような文章が続きます。「思い出すだけでもこみ上げてくるあの熱い情感。それが自分を支え続けてくれるのだ。どんな自分を振り返ることができるか、なのである」(P172)。とかく、私も含めて多くの先生と呼ばれる人が教育論を展開します。「教育とはこうあるべき」ともつともな

内容がほとんどです。しかし、教育の中で最も大事なものは、子ども・生徒・学生が教育を通して、何を学び、何を獲得したのかではないでしょうか。山口先生はそれを「思い出」と表現しているのだと思います。生徒・学生の皆さんも、高校・短期大学でたくさんの思い出を作ってほしいと思います。教員として悩んだとき、迷ったとき、私はこの本を取り出して、山口先生の言葉から多くのことを教えてもらいます。将来、「先生」と呼ばれる職業に就く方はもちろん、親となる人にも是非読んでほしい一冊です。

国際ッキングスクール 副校長 内堀 恵子

どこか懐かしい味 風味と触感が癖になる一品です

My Cooking 29



仙台麩の卵とじ

- 材料/4人分
仙台麩(小) 1袋(50g)
玉ねぎ 1個(200g)
卵 3個
万能葱 適量

- A 出し汁 300ml~400ml
砂糖 大さじ1・1/2
みりん 大さじ4~5
醤油 大さじ2・1/2~3
仕上げ用醤油 大さじ1

▲カロリーは少なめ
■栄養成分(1人分)
カロリー 231Kcal
たんぱく質 9.7g
脂質 8.9g
炭水化物 24.2g



- 「作り方」
1 仙台麩は1・5cm厚さに切り、玉ねぎは薄切りにする。
2 フライパンにAの調味料と①を加え、蓋をして火にかける。
3 煮立ったら中火で2・3分煮て、仕上げに醤油(大さじ1)を加え、とき卵をまわし入れ、蓋をしてふつくと仕上げたら万能葱を加える。

【一口メモ】
仙台麩(せんだいふ)は、別名「油麩」(あぶらふ)とも呼ばれ、油で揚げた麩のことで、フランスパンに似た細長い形状をしているのが特徴です。小麦粉に含まれるたんぱく質であるグルテンを練り上げて棒状にし、食用油で揚げることでコクが出ます。精進料理のタンパク源として使われていますが、日常の食事にも、カツ丼やすき焼きなどに肉の代わりに使用することで、カロリーの少ない健康食品として利用できます。日持ちも良く、独特の風味と触感が癖になる1品です。